

機関誌編集委員会

機関誌編集委員会

委員長：岡崎 睦

委員：朝村 真一、石川 浩三、稲川 喜一、今井 啓道、漆館 聡志、
戎谷 昭吾、小川 令、柏 克彦、楠原 廣久、河野 太郎、
小室 裕造、澤泉 雅之、島田 賢一、関堂 充、副島 一孝、
高成 啓介、武田 啓、田中 克己、内藤 素子、中川 雅裕、
橋川 和信、林 明照、深水 秀一、藤岡 正樹、古川 洋志、
三川 信之、村上 正洋、元村 尚嗣、森 弘樹、森本 尚樹、
安田 浩、矢野 浩規、吉村浩太郎、四ツ柳高敏

特任編集委員：穂山 雅子

開催年月日：①平成 28 年 4 月 14 日、②平成 28 年 9 月 16 日

以下メール編集委員会

①平成 28 年 10 月 26 日、②平成 28 年 12 月 15 日

③平成 29 年 1 月 6 日、④平成 29 年 2 月 15 日

活動の概要：1. 投稿論文進捗状況 平成 28 年 3 月 1 日～平成 29 年 2 月 28 日

①投稿数 112 篇（原著 31、症例 78、総説 3）

②掲載決定 51 篇（原著 11、症例 40）

③進行中 24 篇（原著 8、症例 16）

④待機中 13 篇（原著 3、症例 8、総説 2）

⑤却下 5 篇（原著 1、症例 4）

⑥取り下げ 19 篇（原著 8(不備 4)、症例 10(不備 5)、総説 1(不備 1)）

2. 投稿規程改定について

以下の①～⑥について、平成 29 年 2 月 22 日までの理事会で承認され、37 巻 3 または 4 号会告に掲載し、周知の予定である。

①和文要旨も英文アブストラクトに合わせ、原著とそれに準じる形式の論文は構造化する。

②投稿規程に「スケールバーを推奨する」および「染色法を明記する」ことを追加する。

③投稿区分に「二次出版」を追加し、その条件と機関誌における扱いについて投稿規程に明記することとする。その条件を満たさない多重出版については、別の投稿区分で受け入れ可能かどうか引き続き検討することとした。

④現在の投稿原稿の書式設定（余白 5cm、20 字×20 行）を廃止し、ある程度自由（辺縁 1inch 程度を空けたダブルスペース）とする。

⑤投稿時にカバーレターを付けること。

3. 日形会誌の電子化について

将来的には電子化も視野に入れ、理事会で継続審議していただく必要があることを上申し、理事会でも継続審議することとなった。

4. 専門医試験関連記事の掲載について
専門医認定委員会ならびに専門医試験問題作成委員会のご協力を得て、平成 27 年度専門医試験関連記事を 36 巻 11 号に掲載した。平成 28 年度専門医試験関連記事についても、平成 29 年 2 月 22 日の理事会で承認され、各委員長に執筆依頼を行った。
5. 平成 28 年度学術奨励賞候補論文として日形会誌 (Vol. 36 No. 1~12) から 10 篇 (基礎・臨床各 5 篇) を学術委員会へ推薦した。
6. 「特集 ASPSP2016 (仮案)」原稿執筆依頼について
2016 年 9 月に開催された ASPSP2016 で実施された Guest Nation Scientific Panel (Innovative Plastic Surgery from Japan) の講演を記録に残すために演者の 7 名の先生方 (細川互理事長、波利井清紀先生、成島三長先生、小野田聡先生、田中里佳先生、矢永博子先生、宇津木龍一先生：講演順) と Maliniac Lecture 演者の吉村浩太郎先生に講演内容の執筆依頼を行った。また、細川互理事長に序文、中塚貴志国際委員長に Guest Nation となった経緯の執筆依頼をそれぞれ行った。37 巻 3 号~5 号にかけて数編ずつ掲載の予定である。
7. 投稿規程の見直しについて
二次出版の条件を満たさない多重出版について、また、現投稿区分の明確化 (原著と短報の違い、投書と短報の違いなど) と必要に応じた投稿区分の新設について、林明照先生を座長とした WG で検討中である。また、投稿倫理規定について、橋川和信先生を座長とした WG で検討中である。
8. 機関誌への投稿にビデオを含めることに関して、春恒社、克誠堂出版と協議・検討を行っている。